3　「社会性の学習」の指導内容

対人関係に関すること

①　身近な人の存在を意識し、人とやり取りして行動ができること

教師と児童・生徒の関係を基本に据えて対人関係を作る。教師が、基本的に「要求を受け止め、かなえてくれる存在」や「楽しいことを提供してくれる存在」であることを理解し、やり取りを通して意識できるようにすること。簡単な物を作る活動を通して、わからないことやできないことを教え、助けてくれる存在であり、また、解決や完成などのための正解ややり方を教える存在であることを理解できるようにする。

②　人の名前、顔、表情等を弁別すること

人には固有の名前、顔があることを教師や学級の友達の顔写真や名前カードを用意し、呼名などと合わせて理解していく。カードに「○○を誰々のところに持って行って！」「○○を誰々からもらってきて！」等の指示を写真カードなどと併せて提示することにより、写真カードや名前カードと実際の教師や友達などをマッチングさせる。また、表情カードなどを用いて、「うれしい」「悲しい」などの気持ちを表情カードとマッチングさせ、状況に応じた感情表現の理解を学習する。

③　挨拶・許可・禁止・依頼等の言葉の理解、対応、表現ができること

挨拶は、人と人の関係の基盤となる表現である。「おはようございます」「さようなら」「ありがとう」「ご苦労様でした」「失礼しました」など、状況や場面に応じた言葉は相互の関係を形作っていくことになる。同様に、「○○してもいいですか」などの許可、「止めてください」などの禁止、「お願いします」などの依頼の言葉の学習が状況や場面に応じて表現できること。絵カード提示やサイン（身ぶり）などを併用しながら、場に応じた言葉を学習する。教室などで繰り返し練習した後に、他のクラス担任や保健室、また、地域の店舗や公共施設などでの応用場面を設定し、般化を図る。教師からの言葉を理解する学習と、本人からの表出を促す学習とがある。コミュニケーション手段は音声言語に限らず、本人が最も表出しやすく、また、社会的にも受け入れやすい方法を個に応じて工夫する。

④　人からの期待を理解すること

教師とのやり取りを通して課題を達成したときに、褒められたりごほうびをもらえたりする経験から始め、課題や仕事をすることが人に評価されることであることを学べるようにする。そこから、係活動や役割分担された仕事などを遂行することで評価されることを学習する。課題や仕事が無理やり人に強制されてやることではなく、また、自分だけのためでもないことを学習していくことが必要である。本人にわかりやすい方法で評価される経験を繰り返すことによって身に付けることができる。

⑤　周りの人に合わせた行動ができること

集団行動は、指示が分かること、模倣ができること、状況に応じられることである。集団行動の学習は必ずしも集団で学習することとは限らない。集団行動の要素として教師と 1 対 1 の学習で言語指示理解、模倣などを繰り返し学習し、友達をモデルに学習することで小集団での活動の基盤ができる。状況に応じてモデルを探す学習も必要である。

ソーシャルスキルに関すること

①　状況に応じて適切な行動ができること

必要な状況場面を想定し、「こういう場面ではこうすればよい。」ということを学ぶこと。状況への対応は、場面に応じてパターンで認識し行動することが一つの方法である。また、場面が同じであっても状況が異なることに対応するため、教師がモデルを示し、それを模倣すること。次に、教師の手掛かりではなく、状況に応じた手掛かりで適切な行動ができるようにしていく。例えば、店舗ごとに違う注文やレジでの対応、電車の乗り方等、行動は一つ一つ場面に応じて学習する機会を作る必要がある。

②　因果関係を理解すること

想像力の障害は因果関係を理解する上での困難さをもたらしている。スケジュールカードや手順カード等を用いて手順に基づいて活動できることは必要であるが、結果を予想して活動している場合は少ない。手順と異なる事態が生じたとき、結果を予想して回避したり、調整することは困難である。そこで、結果を予想する手掛かりを獲得したり、結果を順序よく導くことの理解を経験することが必要である。

例えば、調理の手順はカードを順番に並べることから始め、手順にない状態が生じた場面のカードを配し、次にどのような方法が適当か選択カードを提示し、対応の仕方を学習する。また、ソーシャルストーリーを活用して学習することである。

③　順番・ルールなどの要素を理解し、適切な行動ができること

学校や家庭、地域、職場などの社会にはルールがあるということを知り、それを守ることが本人にとっても周りで一緒に活動し生活している人にも大切であることを学習することである。ルールやマナーなどは「目に見えないもの」であり、視覚化して伝えること、また、意味として理解することは難しいことが多く、具体的な行動として学習できるようにする。ルールを構成している内容を要素ごとに指導し、具体的な行動に結びつけるためにモデルを参考にして、適切な行動を身に付ける。

④　役割行動への評価を理解できること

学級内で係活動を決め、それが本人一人で確実にできるよう段階的に繰り返し指導を行う。その上で「できた」ことを評価する。校内における御用学習や家庭でもお手伝いや役割を評価し、トークン等も理解できるようにする。役割を広げるようにする。

⑤　地域や職場など学校以外の場所で、その場に合った適切な対応がとれること

各店舗での買い物、公共施設の利用・交通機関の利用など、地域や職場などでは、学校とは異なる決まりやマナーがある。公共施設には場所と使用目的があり、交通機関では、優先シートがあり、また、公共トイレには男女の区別があるなど、知識として利用方法を知っておくこと、及び、適切な行動がとれるように学習しておくことである。

⑥　状況に合わせて自分の行動を管理・調整すること（セルフマネージメント）

スケジュール表やリマインダーの使い方を覚え、自分で使うことができるようになる力を身に付けることが大切である。人とのスケジュールの調整の仕方を覚えることは、仕事をする上でも必要となる。不測の事態への対処も手掛かりを持つことで可能になる。